

「第4次吹田市地域福祉計画」
進捗管理シート（令和6年度末時点）

■対象室課一覧

シートNO.	施策	対象室課
1	自治会加入率	市民自治推進室
2	小地域ネットワーク活動の延べ参加者数	福祉総務室
3	高齢者生きがい活動センターの利用者数	高齢福祉室
4	障がい者サービスボランティア協力者数	中央図書館
5	青少年指導者講習会の参加者数	青少年室
6	認知症サポーターの養成者数（累計）	高齢福祉室
7	障がい者週間記念事業の啓発行事への参加者数	障がい福祉室
8	成年後見制度の認知度	福祉総務室
9	日常生活自立支援事業利用者数	福祉総務室
10	地域包括支援センターの認知度	高齢福祉室
11	吹田市社会福祉協議会の認知度	福祉総務室
12	コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の（延べ）相談対応回数	福祉総務室
13	自主防災組織の結成数（連合自治会単位・単一自治会単位）	危機管理室
14	災害時要援護者支援に関する協定締結地区数	福祉総務室
15	民生委員・児童委員の人数	福祉総務室
16	単位高齢クラブ数	高齢福祉室
17	コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知度	福祉総務室
18	ふれあい交流サロン設置数	高齢福祉室
19	こどもプラザ事業実施回数	青少年室
20	貸館の延べ使用件数（総合福祉会館）	総合福祉会館
21	地域密着型サービスの整備箇所数	高齢福祉室
22	障がい福祉サービスの利用者数等	障がい福祉室
23	留守家庭児童育成室入室児童数	放課後子ども育成室
24	生活習慣改善するつもりはない人の割合	健康まちづくり室
25	各中学校ブロックにスクールソーシャルワーカーを配置した時間数	学校教育室
26	移動経路のバリアフリー化率	道路室
27	JOBナビすいたの利用者数	地域経済振興室
28	「障がい者就職応援フェアInすいた」への参加者数	地域経済振興室

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート

No.1

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向1：お互いの顔の見える関係づくり

具体的施策	1.地域住民間の交流促進【重点施策】
	2.地域活動・ボランティア活動の促進【重点施策】

【所管】 市民自治推進室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)	
自治会加入率	50.1%	46.0%	44.8%	43.4%	41.7%	60% (2028年度)	

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○市HPで自治会加入の申込みを受付。 ○市HP上に各自治会の活動内容等を掲載できるスペースを確保し、情報発信の支援を行った。 ○自治会加入についてのちらしを令和3年度にリニューアルし、転入者へ配布。また、保育施設や商業施設に配架。ちらしには、市HP上の加入申込フォームにアクセスするQRコードを掲載。 ○自治会加入促進等活動補助金を令和2年度より創設。令和6年度末までの交付実績は30団体。 ○自治会活動支援の一環として、自治会活動に役立つSNS入門講座を開催（令和3年度、4年度に実施）
令和7年度以降の取組予定	○令和6年度末までの取組を継続する。 ○自治会加入促進等活動補助金の補助対象となる事業を拡大し、各自治会の会員数拡大に向けての取組みを支援する。 ○地域コミュニティアプリ「PIAZZA」を導入し、自治会のICT化と他自治会や他団体との情報共有や交流を促進し、地域コミュニティの活性化を図る。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	C	C	自治会加入率が減少している要因は、少子高齢化や核家族化の進展、ライフスタイルの多様化が考えられる。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート

No.2

基本目標Ⅰ：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向Ⅰ：お互いの顔の見える関係づくり

具体的施策	1.地域住民間の交流促進【重点施策】
	2.地域活動・ボランティア活動の促進【重点施策】

【所管】

福祉総務室

Ⅰ 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)	
小地域ネットワーク活動の 延べ参加者数	84,162人	26,194人	46,503人	64,047人	66,270人	86,000人	

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○地区福祉委員会の活動においては、従来（コロナ禍前）の活動状況に戻っている地区が多い一方で、コロナ禍での活動休止が尾を引く地区もあり、サロン活動の再開に向けてCSWが地区福祉委員会に対して働きかけを行い、活動の実施に向けて取り組んだ。 ○ふれあい昼食会が再開された地区もあるが、外出配食に比べると参加者数が減少しているため、周知方法などについて協議する機会を設けるなど各地区の状況に応じた検討を行った。 ○新たに子育てサロンを立ち上げた地区では、より多くの親子に参加してもらえるようチラシの作成等について助言や情報提供を行った。
令和7年度以降の取組予定	○地区福祉委員会をはじめ、民生委員・児童委員や自治会、その他諸団体等と情報共有をしながら、様々な人が交流できる居場所づくりを進めていく。 ○吹田市社協に配置されているCSW中心に活動の充実化、活性化を支援する予定。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	A	A	住民同士の交流の希薄化や見守り機能の低下が見受けられ、孤立・孤独を抱える高齢者や障がい者などが増加傾向にあるなか、CSWが地域福祉活動の立ち上げや再開に係る働きかけを行うなど、地域住民同士のつながり作りに取り組んだ。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート

No.3

基本目標Ⅰ：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向Ⅰ：お互いの顔の見える関係づくり

具体的施策	1.地域住民間の交流促進【重点施策】
	2.地域活動・ボランティア活動の促進【重点施策】

【所管】

高齢福祉室

Ⅰ 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
高齢者生きがい活動センターの利用者数	50,696人	27,555人	46,566人	45,673人	46,421人	53,410人

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○新型コロナウイルス感染症が急速に拡大していた令和3年度は、感染防止策として一時的に休館したが、令和4年度以降については、感染症対策を講じながら、開館を継続した。年間延利用者数が昨年度に比べ748人増、1日の平均利用者数が3人増とやや増加し、コロナ禍前の令和元年度と同程度まで回復しつつある。 ○会議室や交流スペースの提供の他、健康・教養・世代間交流に資するさまざまな講座を実施しており、新規利用者の獲得や施設利用の定着に繋げている。講座メニューについては毎年見直しを図り、高齢者のニーズに素早く対応することで、利用促進、施設の活性化に努めている。その結果、講座等事業の参加者数について、昨年度比で主催事業は83人減となったが、自主事業は240人増となり、特に自主事業については、参加者が過去5年間で最多となった。
令和7年度以降の取組予定	○今後も引き続き、講座内容や広報の見直しなど安心して生きがいづくりの活動をしていただけるよう改善・工夫を重ねていくことで、利用者数の回復に努めていく。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	B	利用者のニーズを的確に捉え、サービスや講座の内容を充実させたことで、年間利用者数の回復や講座等事業の参加者数の増加に繋がったため。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート

No.4

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向2：福祉活動の担い手づくり

具体的施策	1.人権・福祉に対する意識の向上
	2.地域福祉を担う人材の育成・確保

【所管】 中央図書館

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
障がい者サービス ボランティア協力者数	215人	188人	186人	189人	199人	250人

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○音訳・対面朗読ボランティア養成初級講座 10回 のべ74名参加 ○音訳・対面朗読ボランティア養成中級講座 11回 のべ75名参加 ○デジター図書製作講座 6回 のべ44名参加 ○点訳ボランティア養成講座（実践コース） 10回 のべ48名参加 ○音訳・対面朗読ボランティア養成講座修了者 7名
令和7年度以降の取組予定	○令和7年度は下記4講座を実施予定。 音訳・対面朗読ボランティア養成初級講座 10回 音訳・対面朗読ボランティア養成中級講座 11回 デジター図書製作講座 6回 点訳ボランティア養成講座（基礎コース） 10回

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	B	令和6年度については、ボランティア養成講座は、予定通り実施できた。ボランティアの高齢化に伴い、今後もボランティアの減員が予想される。また、養成後に短期間でボランティア活動を終了される場合もあり、数値目標の達成は、厳しい状況にある。

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進
施策の方向2：福祉活動の担い手づくり

具体的施策	1.人権・福祉に対する意識の向上
	2.地域福祉を担う人材の育成・確保

【所管】 青少年室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)	
青少年指導者講習会の参加者数	244人	61人	203人	161人	294人	350人	

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○これから地域のボランティアを目指す方々に基礎的な知識を身につけていただくため、また既にボランティアとして活動されている方々のスキルアップのため、令和6年度は、「発達症と不登校」「青少年の特殊詐欺被害防止」等、現在の青少年を取り巻く課題をテーマとして、指導者講習会を開催した。 <令和5年度実績> 延べ実施回数6回、延べ参加者161人、動画配信による動画視聴回数71回 <令和6年度実績> 延べ実施回数7回、延べ参加者294人、動画配信による動画視聴回数46回 今後、より多くの方が興味を持ち、さらに受講者が増えるような講習テーマ作りや参加しやすくなる受講方法の構築が必要と考える。
令和7年度以降の取組予定	○引き続き、地域の幅広い世代、分野の方々の協力を得られるよう講習会を開催するとともに、より多くの方が参加できるようオンライン受講やアーカイブ配信等、多様な受講方法を取り入れながら、指導者育成を進める。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	B	目標値には達していないものの講習会参加者数は増加傾向にあるため。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート

No.6

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】 高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
認知症サポーターの養成者数（累計）	24,390人	27,434人	28,386人	29,464人	31,155人	37,466人

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○「認知症サポーター養成講座」を、市民、大学生、小学生、市職員、医療従事者や民間企業の従事者向けに参集やオンライン形式で開催した。平日昼間以外にも、土日や夜間の時間帯も設け幅広い年齢層に受講してもらえた。 ○地域ネットワーク構築に向けて認知症サポーターステップアップ講座を開催した。令和5年度に認知症の人や家族のニーズを認知症サポーターや多職種の支援者につなぐ仕組みである「チームオレンジ」が1か所立ち上がり、令和6年度は2か所めが立ち上がった。 ○9月のアルツハイマー月間において、吹田オレンジフェアを病院、地域包括支援センターと協働し、地域住民対象に対し、認知症サポーター養成講座や声かけ見守り訓練等を実施した。 ○「声かけ見守り訓練マニュアル」を令和6年4月に改訂し、令和6年度は1地域で訓練を実施できた。
令和7年度以降の取組予定	○「認知症サポーター養成講座」や認知症地域サポートの周知を積極的に行う。 ○認知症地域推進員、地域包括支援センター等と連携し、「チームオレンジ」の立ち上げの拡大を目指す。 ○認知症サポーターステップアップ講座やキャラバン・メイト全体研修（令和8年度）を開催し、認知症支援に関わる方のモチベーション向上、スキルアップを図る。 ○9月の認知症月間において認知症に関する普及啓発等を行う。 ○認知症の当事者、家族の支援を行うため、講演会、教室、相談会を実施する。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	B	令和6年度はチームオレンジが1か所立ち上がり、市内では計2か所になった。 認知症地域サポートとして、声かけみまもり訓練を実施できた。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート

No.7

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】 障がい福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
障がい者週間記念事業の啓発行事への参加者数	974人	320人	1,024人	1,352人	1,434人	1,200人

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○令和6年度障がい者週間記念事業は、下記の3つのイベントを実施。 (1) 令和6年12月7日、幅広い分野の方々に啓発を行うため、障がいの有無に関わらず誰もが楽しめる「ゆるスポーツ」を中心とし、「すいたCOCOROフェス」と銘打ち開催。970人が参加した。 (2) 令和6年12月1日から4か月間、オンラインの集いとして、10事業所が活動紹介を収録した動画を配信。440人のYouTubeアクセス数があった。 (3) すいたCOCOROフェスと同日、メイシアター1階ロビーにおいて、活動の場の紹介として、12事業所の活動状況等が分かるものを展示。事業所から24人が参加した。 ○すいたCOCOROフェスと同日、メンタルヘルスの問題を抱える家族や同僚など身近な人に対して、傾聴などによる予防や早期介入できる支援者を養成するため、こころサポーター養成講座を開催。222人が受講した。(令和5年度は422人)
令和7年度以降の取組予定	○障がい者週間記念事業については、継続して幅広い分野の方々に啓発を行うため、昨年度同様、「ゆるスポーツ」を中心とした「すいたCOCOROフェス」を実施予定。また、関係室課と連携したり学生ボランティアの参加を呼びかけることで、より多くの方々に障がい者週間記念事業の啓発行事に参加していただき、啓発の充実化を図っていく。 ○こころサポーター養成講座については、昨年度から障がい者相談支援センターに事業を委託している。継続して開催し、より多くの方が受講することにより、精神疾患への偏見や差別を解消し、地域で安心して暮らせる社会の実現につなげていく。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	A	幅広い分野に向けた啓発を実施することができた。参加者数も増加傾向にあり、既に目標値を超えている。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 （平成30年度）	2021年度 （令和3年度）	2022年度 （令和4年度）	2023年度 （令和5年度）	2024年度 （令和6年度）	2026年度 （令和8年度）	
成年後見制度の認知度	36% （2019年度）	実績なし	実績なし	実績なし	実績なし		48%

※令和7年度に実施する「吹田市民の地域福祉に関する実態調査」で実績値を把握する予定です。
※2018年度の実績がないため、2019年度の実績を参考値欄に記載しています。

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 （進捗、成果、課題等）	○本市の中核機関である「吹田市権利擁護・成年後見支援センター（通称：けんりサポートすいた）」を令和6年7月1日に開設し、ホームページの開設やリーフレットの作成して周知を行うとともに相談機能の一つとして弁護士等の専門職による専門職相談及び派遣を実施し制度の利用促進を行った。 ○「吹田市権利擁護支援に係る地域連携ネットワーク協議会」を令和6年7月1日に設置し、制度の利用状況や課題について関係機関と意見交換や情報共有を行った。（第1回は令和6年7月30日、第2回は令和7年3月19日に開催した。）この他、中核機関の運営に関する方針等を協議する運営委員会を5回実施し、相談機能の利用促進やセンターの周知方法等について検討を行った。 ○成年後見制度の認知度向上に資する取組として、令和7年12月5日に中核機関主催の研修として権利擁護支援に関する研修を開始した。
令和7年度以降の取組予定	○制度の周知や利用促進の取組として中核機関主催の出前講座や研修、フォーラムの開催を予定している。 ○次期地域福祉計画の策定に係る実態調査において、権利擁護に関する認知度を把握し、吹田市成年後見制度利用促進計画の骨子案を検討していく。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 （令和5年度）	2024年度 （令和6年度）	評価の理由等
評価	A	A	中核機関が開設されたことで、制度の周知や専門的な視点での支援の提供を行うことができた。引き続き中核機関の認知度向上の取組を進める。 また、関係機関とは引き続き協議会等を通じて連携を強化し、地域連携ネットワークの構築や権利擁護支援チームの形成・自立支援に向けて取り組む。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】

福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 （平成30年度）	2021年度 （令和3年度）	2022年度 （令和4年度）	2023年度 （令和5年度）	2024年度 （令和6年度）	2026年度 （令和8年度）
日常生活自立支援事業 利用者数	94人	98人	94人	96人	107人	110人

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 （進捗、成果、課題等）	○令和6年度、新規契約者は22人（認知症高齢者等3人、知的障がい者等11人、精神障がい者等8人）であり、契約終了は11人（認知症高齢者等2人、知的障がい者等2人、精神障がい者等7人）であった。 ○契約終了の理由としては、「転居による他市の社協に移管」1人、「成年後見制度に移行」8人、「本人死亡」1人、「本人意思による解約」1人となっている。 ○令和7年3月末時点での待機者数は0人となっている。 ○専門員、生活支援員の人員確保やスキルの向上等により、引き続き待機者を出さない事業運営が課題となる。
令和7年度以降の取組予定	○令和6年度中に待機者が解消されたが、その状態が継続できるよう、人員の確保を目指すとともに職員のスキル向上に取り組む。 ○「けんりサポートすいた」と連携することで、日常生活自立支援事業へ相談のあったケースや当事業の利用者について、成年後見制度の検討や申立支援など、成年後見制度とのよりスムーズな連携がすすむように取り組む。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 （令和5年度）	2024年度 （令和6年度）	評価の理由等
評価	B	A	「けんりサポートすいた」との連携もあり、令和6年度に待機者を解消するにいたった。利用者数についても、令和5年度末に比べて11人増となっている。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート

No.10

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】

高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
地域包括支援センターの認知度	実績なし	実績なし	38%	実績なし	実績なし	50% (2025年度末)

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○地域包括支援センターの職員配置について三職種4名であった体制を令和5年度当初から5名の配置とした。 ○地域包括支援センターは多様なニーズに対応した総合相談支援を行うため、地域の行事等のあらゆる機会を通して地域包括支援センターの周知に努めた。 ○市としても要支援要介護認定の結果通知に地域包括支援センター一覧の同封や、市が実施する事業を通して地域包括支援センターの周知に努めた。
令和7年度以降の取組予定	○令和6年度までの取組について引き続き継続する。 ○毎年度、地域包括支援センター業務実施状況の評価を実施しており、継続して全地域包括支援センターが評価基準を満たすことを目標として、センターの機能強化と安定的な業務継続を図る。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	A	A	全ての地域包括支援センターが地域活動等のあらゆる機会を通じて地域包括支援センターの周知に取り組むことができた。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート

No.11

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】

福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
吹田市社会福祉協議会の認知度	37.4% (2019年度)	実績なし	実績なし	実施なし	実施なし	60%

※令和7年度に実施する「吹田市民の地域福祉に関する実態調査」で実績値を把握する予定です。
※2018年度の実績がないため、2019年度の実績を参考値欄に記載しています。

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○令和6年度地域福祉市民フォーラムにて、吹田市社会福祉協議会と共催で居場所づくりを目的に各分野や地域で活動する団体からの取組報告や参加者同士が居場所について意見交換を行った。 ○令和6年5月に開催された吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、特設ブースにより活動紹介を行った。
令和7年度以降の取組予定	○令和7年5月に開催された吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、特設ブースにてPRパネル（映像）や広報誌等の配布、ゲームコーナー、子育てサロンの体験コーナーの運営等を行った。昨年度より絵本の読み聞かせスペースを拡大したことにより、未就学児や保護者に対してより具体的に活動の体験、周知をすることができた。 ○令和7年度中に複数回地域福祉市民フォーラムを開催する予定であり、昨年度と同様吹田市社会福祉協議会との共催により各事業等の周知に取組む予定。 ○令和7年9月号の市報すいたに吹田市社会福祉協議会に委託している吹田市権利擁護・成年後見支援センターの記事を掲載し、活動や制度の周知を行う予定。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	A	A	夢のファミリーフェスタについてはブースの配置等を見直したことで来場者と会話する機会が増え、より具体的な活動の周知につながった。引き続き、数値目標の達成に向け機会を捉えて広報・啓発活動に取り組む。

「第4次吹田市地域福祉計画」進捗管理シート

No.12

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
コミュニティソーシャルワーカー (CSW) の(延べ)相談対応回数	1,825件	2,248件	2,150件	1,682件	1,419件	2,290件

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○CSWに相談があった場合、地域活動やボランティア活動を行う市民活動団体、他機関など専門機関と連携・協働して支援を行った。すぐに課題を解決できない場合であっても、相談対象者の不安に寄り添い、関係を閉ざさない支援に努めた。 ○令和6年3月に豊能・三島ブロックCSW連絡協議会を吹田市社会福祉協議会と合同で開催し、グループワークにより他市CSWの動きや課題等を学んだ。 ○CSWの活動が地域内に浸透し、福祉委員や民生委員からの相談が増加傾向にある。 ○精神障がいの方や精神疾患の疑いのある方からの相談、ひきこもりに関する相談についても増加傾向にある。CSWが関わりを持つことで悩みが軽減する方もいれば、そうではない方もおり、関わりが長期化し伴走型の支援が必要となる場合も多くなっている。
令和7年度以降の取組予定	○8050問題やひきこもり等、複雑化・複合化した課題を抱えた世帯への支援が多くなっているため、課題解決への支援だけではなく、孤立・孤独にさせないネットワークづくりを進めていく。 ○令和7年度からの重層的支援体制整備事業の実施に伴い、アウトリーチ等を通じた継続的支援として自発的に援助を求めようとする要援護者などに対しても積極的な働きかけを行っていく。また、吹田市社会福祉協議会に新たに配置した重層支援コーディネーター等と連携し、包括的な支援体制の構築に向けた取組を実施することとしている。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	A	A	会議、研修等は計画どおり準備が進んでいる他、重層的支援体制整備事業の実施に伴い、CSWの役割等について研修の機会等を設け市とも意見交換を行った。引き続き数値目標の達成に向け、ネットワークづくりを進めるとともに課題を抱えた人の掘り起こしや関係を閉ざさない支援を進めていく。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策

1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】

2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】

危機管理室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
自主防災組織の結成数（連合自治会単位・単一自治会単位）	25団体・ 277団体	28団体・ 294団体	29団体・ 295団体	30団体・ 297団体	32団体・ 300団体	34団体・ 324団体

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○連合自治会単位の自主防災組織が2組織結成された。 残りは江坂大池地区連合自治会と江坂連合自治会の2か所。 ○単一自治会単位の自主防災組織は3組織結成された。 令和6年度末時点で、結成相談が9件ある。
令和7年度以降の取組予定	○自主防災未結成の連合自治会へは個別訪問を行い、困りごとを聞き取ったうえで結成へ向けたサポートをする。 ○単一自治会については、相談を受けた組織への進捗確認を電話もしくは窓口で行い、提出資料作成サポートや事例紹介をする。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	A	B	連合自治会単位の自主防災組織は、残り2か所と順調に進んでいる。 また、単一自治会単位の自主防災組織については、結成数と相談件数を踏まえると、概ね進んでいるものと評価できるため。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】

福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
災害時要援護者支援に関する協定締結地区数	6地区	11地区	11地区	12地区	13地区	34地区

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○令和6年1月及び4月に災害時要援護者支援に関する協定をそれぞれ1地区と締結した。 ○災害時要援護者支援に関する協定締結に向け、協定未締結地区である地区と継続的に体制構築に向けて協議を行った。 ○災害時要援護者支援に関する出前講座などにおいて、災害時要援護者名簿や個別避難計画に関する取組を説明し理解促進に努めた。 ○災害時要援護者への支援活動に関して、個人情報の保護を図りつつ、効果的に取組を進めていく必要がある。
令和7年度以降の取組予定	○災害時要援護者支援に関する協定締結に向け、協定未締結地区と協議等を行う。 ○災害時要援護者支援に関する理解促進を図り、地域における顔の見える関係や支援体制づくりに向けて引き続き取り組む。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	B	令和6年度に新たに1地区と協定を締結したほか、未締結の地域とも協議等を行い、理解促進等を進めることができた。 災害時要援護者への支援活動について、個人情報の保護を図りつつ、効果的な取組となるよう、理解を得ながら進めていく必要がある。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向1：地域福祉活動に関する支援

具体的施策	1.地域で活動する諸団体への支援
	2.社会福祉協議会等の活動支援

【所管】

福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
民生委員・児童委員の人数	498人	499人	500人	508人	504人	551人

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	民生委員・児童委員の担い手確保のため、民生委員・児童委員活動のPR（認知度向上）と活動環境の改善のため以下の内容に取り組んだ。 ○夢のファミリーフェスタを開催し、協議会のPR活動などを実施した。 ○全地区にて学校長との懇談を行い各学校等の子どもたちの様子や抱える課題について共有した。 ○民生委員・児童委員をPRするために、夢のファミリーフェスタ等の協議会が主催するイベントの際に、PRウエットティッシュを配布した。 ○協議会の効率的な運営や活動の負担軽減を図るため、地区委員長及び主任児童委員にタブレット端末を配布し、オンライン会議等の導入やLINEWORKSによる業務連絡や会議資料の共有を行うなど協議会のICT化を図った。 ○活動の負担軽減を図るため、民生委員・児童委員が行う各種証明事務について、民生委員・児童委員による証明以外の方法で対応してもらうよう関係各室課に働きかけた。 ○協議会のホームページの内容について、各地区の活動紹介ページを設けるなど市民向けに情報発信しやすい内容となるよう改修した。
令和7年度以降の取組予定	○令和6年度に引き続き、夢のファミリーフェスタ等の協議会が主催するイベントの際に、PRウエットティッシュを配布して啓発に取り組む。 ○協議会の効率的な運営や活動の負担軽減を図るため、地区委員長及び主任児童委員に加え、広報部会員に対して、LINEWORKSのアカウント付与を行う。 ○協議会のホームページに、各地区の活動紹介ページを順次掲載し、地域住民に自分が活動している姿を想像できるようなPRに努める。 ○担い手確保のため、ICT化の推進に加え、他市での好事例等も参考にしながら民生委員・児童委員の新たな担い手確保策について検討を進める。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	B	民生委員・児童委員の担い手確保のため、市と協議会が連携し、活動環境の改善とPR方法の検討に取り組んだ。令和5年度に比べると人数は減少しているが、ホームページの改修を行うなど担い手確保に向けた取り組みを進めることができた。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向1：地域福祉活動に関する支援

具体的施策	1.地域で活動する諸団体への支援
	2.社会福祉協議会等の活動支援

【所管】 高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)	
単位高齢クラブ数	205クラブ	197クラブ	185クラブ	177クラブ	171クラブ		実績値の水準を維持

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○市内の各地区で活動する単位高齢クラブをもって吹田市高齢クラブ連合会を組織しており、各クラブ活動を強化し、明るく楽しい生活を送ることができるよう、高齢者の福祉を推進している。 ○団塊の世代が全て75歳以上となる2025年、さらに団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年、65歳以上人口のピークを迎える2050年を見据え、超高齢社会の地域のコミュニティ・見守り隊・外出支援の担い手・介護予防の推進活動隊として、高齢クラブが果たす役割は重要となっていくが、会員数が減少傾向にあり、会員数拡大が課題となっている。
令和7年度以降の取組予定	○引き続き、高齢クラブの活動実態や高齢者のニーズを把握し、高齢クラブへの加入・参加を促し、高齢クラブ活動の活性化を図る。 ○高齢クラブの維持・活性化に取り組んでいる吹田市高齢クラブ連合会に対し、高齢クラブへの助言の支援をしていく。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	C	C	高齢クラブでは、新型コロナウイルス感染症の影響や就労年齢の高齢化による高齢者のライフスタイルの変化、地域との関わりの希薄化等の原因により、会員数の減少やクラブの解散が続いており、当年度も同様であった。 今後も高齢クラブ連合会と連携し、PR活動を通して高齢クラブの良さを知っていただく機会を提供し、新規会員の加入に向けた取組への支援を進めていく。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向1：地域福祉活動に関する支援

具体的施策	1.地域で活動する諸団体への支援
	2.社会福祉協議会等の活動支援

【所管】

福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知度	15.5% (2019年度)	実績なし	実績なし	実績なし	実績なし	30%

※令和7年度に実施する「吹田市民の地域福祉に関する実態調査」で実績値を把握する予定です。
※2018年度の実績がないため、2019年度の実績を参考値欄に記載しています。

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○令和6年5月に開催された吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、特設ブースにてPRパネル（映像）や広報誌等の配布、ゲームコーナー、子育てサロンの体験コーナーの運営等を行った。 ○令和7年2月に開催された地域福祉市民フォーラムにて、令和7年4月の重層的支援体制整備事業実施にあわせて、各分野や多世代が交流する居場所にかかる活動の周知等を目的とした取組を、吹田市社会福祉協議会と合同開催した。
令和7年度以降の取組予定	○令和7年5月に開催された吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、特設ブースにてPRパネル（映像）や広報誌等の配布、ゲームコーナー、絵本・紙芝居読み聞かせコーナーの運営等を行った。 ○令和7年7月開催予定の地域福祉市民フォーラムにて、第5次地域福祉活動計画の報告や多世代交流に係る取組事例の紹介、参加者同士の意見交流などを目的とした取組を、吹田市社会福祉協議会と合同開催予定。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	A	A	夢のファミリーフェスタについては滞りなく運営を進めることができ、特設ブースの来場者にはCSWの活動内容等が記載されたチラシを配布するなど、幅広い層の方々に周知を行った。引き続き、数値目標の達成に向け機会を捉えて広報・啓発活動に取り組む。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備
施策の方向2：交流の場、活動拠点の整備

具体的施策	1.みんなの居場所づくり
	2.地域福祉活動の拠点の整備

【所管】

高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)	
ふれあい交流サロン設置数	6か所	8か所	11か所	12か所	12か所	12か所	

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○ふれあい交流サロン設置数は目標値の12か所であったが、年度末で1か所が閉所となった。
令和7年度以降の取組予定	○円滑な運営を行えるよう、引き続き支援し、介護予防の取組を実施するよう、引き続き働きかけを行うとともに、12か所設置の目標に向けて公募を行っていく。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	A	A	令和6年度は、目標値の12か所に設置していたが年度末で1か所が閉所となったため、12か所設置の目標に向けて公募を行っていく。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向2：交流の場、活動拠点の整備

具体的施策	1.みんなの居場所づくり
	2.地域福祉活動の拠点の整備

【所管】

青少年室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
こどもプラザ事業実施回数	1,992回	516回	1,805回	1,869回	2,154回	2,400回

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○本事業は、学校及び地域の方々の協力を得ながら実施している。 ○「太陽の広場」では、地域の高齢化等によるボランティア不足の課題が顕著に現れてきていることから、今後も持続可能な事業とするため、令和6年度より2校で民間委託をモデル実施した。 ○「地域の学校」では、地域のボランティアの協力で体験活動を実施した。 ○両事業とも地域の担い手不足が喫緊の課題であり、確保策の検討が必要と考える。
令和7年度以降の取組予定	○地域の方がボランティア活動に関わりやすくするために、地域の負担を軽減し、持続可能な事業とするための取組を進める。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	B	実施回数に地域差はあるものの、総事業実施回数は、コロナ禍前の回数に戻っており、増加傾向にあるため。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向2：交流の場、活動拠点の整備

具体的施策	1.みんなの居場所づくり
	2.地域福祉活動の拠点の整備

【所管】 総合福祉会館

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
貸館の延べ使用件数（総合福祉会館）	3,665件	1,694件	2,182件	2,679件	2,879件	4,190件

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○令和5年度に新型コロナウイルス感染症による収容人数等の制限を解除したが、貸室提供を行う登録団体が減少した。これはコロナ期に、リモートによる活動、他の場所へ拠点移転、さらには団体の高齢化等から活動を行わなくなったことが原因と思われる。 ○令和6年度は集会室を執務スペースから本来の貸室へ戻したが、先述した理由で使用件数は微増に留まり、目標値には及ばなかった。
令和7年度以降の取組予定	○主催事業である障がい者向け教室事業については、事業の内容を対外的にPRできる機会（イベント等）や様々な媒体を積極的に活用しながら、情報発信の強化に努める。 ○今後総合福祉会館の大規模修繕も控えていることから、現状の貸館利用の実態を分析するとともに貸室団体との意見交換等を行う予定である。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	B	新型コロナウイルス感染症の時期を経て、貸館の利用に変化があったものの、制限を解除して以降も利用件数は伸び悩んだため。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】

高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)	
地域密着型サービスの整備箇所数 ①小規模多機能型居宅介護 ②看護小規模多機能型居宅介護 ③定期巡回・随時対応型訪問介護看護 ④認知症高齢者グループホーム ⑤小規模特別養護老人ホーム	①8か所 ②1か所 ③2か所 ④17か所 ⑤6か所	①9か所 ②2か所 ③2か所 ④20か所 ⑤9か所	①9か所 ②2か所 ③3か所 ④21か所 ⑤10か所	①9か所 ②2か所 ③3か所 ④21か所 ⑤10か所	①9か所 ②3か所 ③4か所 ④21か所 ⑤10か所	①9か所 ②3か所 ③4か所 ④22か所 ⑤10か所	

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○第8期吹田健やか年輪プランに基づき、令和3年度から令和5年度までの間に、定期巡回・随時対応型訪問介護看護1か所、認知症高齢者グループホーム2か所、小規模特別養護老人ホーム2か所及び小規模多機能型居宅介護1か所の整備事業者を選定した。 ○第9期吹田健やか年輪プランに基づき、令和6年度に、定期巡回・随時対応型訪問介護看護1か所、認知症高齢者グループホーム1か所及び看護小規模多機能型居宅介護1か所の整備事業者を選定した。 ○認知症高齢者グループホーム（1ユニット）1か所が令和5年度末で廃止となったことに伴い、第9期吹田健やか年輪プランで定める必要利用定員総数を満たすため令和6年度に公募を実施したが、応募がなく整備事業者を選定できなかった。
令和7年度以降の取組予定	○令和6年度に選定できなかった認知症高齢者グループホーム（1ユニット）1か所の整備事業者を選定する。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	A	第9期吹田健やか年輪プランで定めた地域密着型サービスの必要整備数について、整備事業者が選定されており、整備が見込まれるため。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】

障がい福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
障がい福祉サービスの利用者数等 ①ホームヘルプなど訪問系サービスの利用者数（月平均） ②グループホームの利用者数（月平均） ③移動支援事業の利用者数（月平均） ④就労継続支援B型事業所における 工賃平均月額	①1,089人 ②355人 ③1,078人 ④13,113円	①1,463人 ②444人 ③927人 ④15,259円	①1,548人 ②468人 ③983人 ④15,422円	①1,641人 ②535人 ③1,005人 ④15,422円	①1,787人 ②582人 ③1,022人 ④大阪府調査結果待ち	①1,863人 ②575人 ③1,181人 ④17,219円

※④については大阪府により調査結果が集計され次第記載します。

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○令和6年度は、新型コロナウイルス感染症が一定収束し、事業所も従来どおりの障がい福祉サービスを提供できるようになり、障がい福祉サービス利用者も全般的に増加した。また、状況に応じて事業所と連携し、安定した障がい福祉サービスが継続して提供できるよう、必要なサポートを実施した。
令和7年度以降の取組予定	○事業所が継続して安定した障がい福祉サービスを提供できるよう、引き続き状況に応じて連携し、必要なサポートを実施する。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	B	事業所が安定して障がい福祉サービスを提供できた結果、訪問系サービス、グループホーム、移動支援事業の利用者数は、昨年度から増加した。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】 放課後子ども育成室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
留守家庭児童育成室入室児童数	3,506人	4,413人	4,688人	4,962人	5,395人	5,000人

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○放課後の児童に安心・安全な居場所として留守家庭児童育成室（以下、「育成室」という。）を開設している。 ○育成室の入室希望児童が大幅に増加している状況を踏まえ、小学校の協力を得ながら必要な施設の確保を進めた。一方で、指導員の欠員を解消するため、人材派遣サービス活用等により指導員の確保を行うとともに、令和7年度から運営委託する4育成室の事業者を選定、引継ぎを進めた。 ○昨年度に引き続き、待機児童対策として放課後キッズスクエアを開設し、待機児童の居場所の確保に努め、国の交付金を活用し、運営業務を委託している育成室の安定運営のために放課後児童支援員等処遇改善事業を実施した。 入室申請者数：5,503人 入室児童数：5,395人 待機児童数：108人(令和7年3月時点:7人) うち育成室を待機となった結果、放課後キッズスクエアを利用した人数：71人
令和7年度以降の取組予定	○年々増加する入室申請数に対応し、待機児童を生じさせないため、指導員の定着に向けた手立てを検討するとともに、運営業務委託についても既存委託育成室の安定運営を確認しながら、今後の実施を検討する。 ○これまでの対応だけでなく、様々な手法を検討し、持続可能な事業の在り方を検討していく。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	B	目標（入室児童数）を達成し、児童に対して放課後の安心・安全な居場所を提供できているが、待機児童が発生しているため、B評価とした。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備
施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】健康まちづくり室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
生活習慣改善するつもりはない人の割合	男性28.8% 女性21.5%	男性28.2% 女性20.8%	男性：28.4% 女性：20.4%	男性：27.4% 女性：20.4%	男性：28.1% 女性：20.3%	男性25.0% 女性17.0%

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○健康すいた21(第3次)の中間評価(中間見直し)を行い、分野別の評価指標や指標に基づく取組等の達成状況を評価することで、目標の達成に向けた課題を明らかにした。 ○健都レールサイド公園及び吹田市立健都ライブラリーの指定管理により、健康に関する多様な講座・イベントを開催した。(令和6年度実績：延べ1,629回) ○市民が知りたい健康・医療情報にアクセスしやすいよう、ホームページのカテゴリーを見直すとともに、特色ある取組をまとめたページを作成した。
令和7年度以降の取組予定	○健康すいた21(第4次)の策定に向け、健康に関する市民意識アンケート調査を実施する。 ○親子健康応援アプリ「すいろぐ」において、利用者アンケートの結果を踏まえ、情報発信の充実を図る。 ○引き続き健都レールサイド公園及び吹田市立健都ライブラリーの指定管理により、健康に関する多様な講座・イベントを開催する。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	A	B	地域団体、企業、研究機関等の多様な主体との連携により、取組は進んでいる。引き続き、指標の目標値の達成に向け、健康に関心の薄い人を含めた全ての市民が生涯にわたって健康的なライフスタイルを無理なく生活の中に取り込めるよう、くらしにとけこむ健康づくりを推進する。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】

学校教育室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
各中学校ブロックにスクールソーシャルワーカーを配置した時間数	8,469時間	15,355時間	15,219時間	15,147時間	15,783時間	15,738時間

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○全18中学校ブロック（小学校2校・中学校1校が16ブロック、小学校1校・中学校1校が1ブロック、小学校3校・中学校1校が1ブロック）に週20時間を基本としてSSW（スクールソーシャルワーカー）を配置し、いじめや不登校、虐待等の課題に対して福祉の専門家として関わり、各校で週1回開催されるコア会議や生徒指導委員会、必要に応じた個別のケース会議等に参画し、いじめや不登校、虐待等の対応に関する助言や環境への働きかけ、関係機関との連携・ネットワークの構築等、多様な支援を行った。 ○全18中学校ブロックすべてにSSWを配置できているが、SSWの配置時間の拡充や人材確保、処遇改善等の検討を行い、安定的な雇用をめざす。経験の浅いSSWに対しては、SSWSV（SSWスーパーバイザー）やチーフSSWによるOJTやスーパービジョン、毎月1回開催している連絡会を通じて支援し、安心して業務に取り組める体制を整えた。 ○支援により課題が解決もしくは好転した児童・生徒の割合は約80%となった。
令和7年度以降の取組予定	○SSW連絡会を引き続き毎月1回開催し、学校外支援機関との関係性強化と、より実効性ある事例検討・研修の機会とする。 ○経験の浅いSSWへのサポート体制を強化し、SSWSVやチーフSSWによる個別支援を充実させる。 ○雇用の安定化に向け、庁内連携を図りながら制度面での検討を推進し、SSWが本来業務に専念できる体制整備を進める。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	B	全ブロックに安定的にSSWを配置し、継続的な支援体制を維持できている。支援実績も昨年度を上回る時間数となり、支援効果も向上しているが、依然として人材確保や処遇改善に課題が残っているため、評価は「概ね進んでいる」とした。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】

道路室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
移動経路のバリアフリー化率 (整備済延長/全延長×100)	52.90%	81.80%	90.80%	91.90%	93.40%	100%

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○市域において、バリアフリー法等に基づき、バリアフリー基本構想が策定され、高齢者、障がい者等の移動等の円滑化を推進している。整備内容は、歩道及び車道等との段差・勾配の解消、バリアフリーに配慮した路面舗装、視覚障がい者誘導用タイルの設置等を行う。 ○令和6年度は片山町31号線の整備を実施した。(片側の歩道のみ)
令和7年度以降の取組予定	○令和7年度は片山町31号線の整備を行う。(残り片側の歩道) ○今後、新たなバリアフリー基本構想が策定される予定で、その基本構想で経路に指定される路線のバリアフリー整備を実施していく。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	B	大阪府の事業や開発事業の影響で整備時期が未定の路線があるが、それ以外の路線については、令和7年度で整備が完了する。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】

地域経済振興室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
JOBナビすいたの利用者数	5,050人	2,561人	3,134人	3,587人	3,749人	実績値の 水準を維持

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○令和6年度は利用者が4.5%増加した。 ○求職者のニーズを把握し、より効果的なセミナーや面接会、就職支援講座を実施していくことが課題である。
令和7年度以降の取組予定	○就職困難者は様々な阻害要因を抱えているため、今後もきめ細やかな相談体制を確保し、個々の求職者に応じた就労支援を実施していきたい。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	A	A	定期的なセミナーや面接会の開催によって、利用者数が増加した。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】

地域経済振興室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2026年度 (令和8年度)
「障がい者就職応援フェアInすいた」への参加者数	75人	27人	32人	16人	37人	実績値の 水準を維持

2 取組の進捗状況

令和6年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○ハローワーク淀川及び吹田商工会議所と連携し、「障がい者就職応援フェアInすいた」を開催した。 ○例年と同時期で実施したが、参加企業数の増加により、前年と比較し参加者数が大きく回復した。
令和7年度以降の取組予定	○令和7年度は11月17日に開催予定。 ○共催しているハローワーク淀川及び吹田商工会議所と密な連携を図り、参加者数の増加に向けて実施内容の改善等に取り組んでいきたい。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	評価の理由等
評価	B	A	参加者数が大きく回復した。